

NEW!! 薄箱自動梱包機 Rola INNANI

09 ENVISSMO版 EV「アリア」(顧客層獲得へ)

10 生産再編 群馬に新工場 日本エアーテックは、生産体制を再編する。26年をめぐり群馬県に新工場を建設。

11 IH積層プレス機投入 ショーダテクトロンは、PCB用にIHで加熱・加圧する積層プレス機を投入。

地球環境とウェルネスで、サステナブルな未来に挑む。地球の恵みを、社会の望みに。エア・ウォーター

日刊

THE NIKKAN

工業

KOGYO SHIMBUN

新聞

3月11日 月曜日

2024年(令和6年)

TODAY

32 深層断面

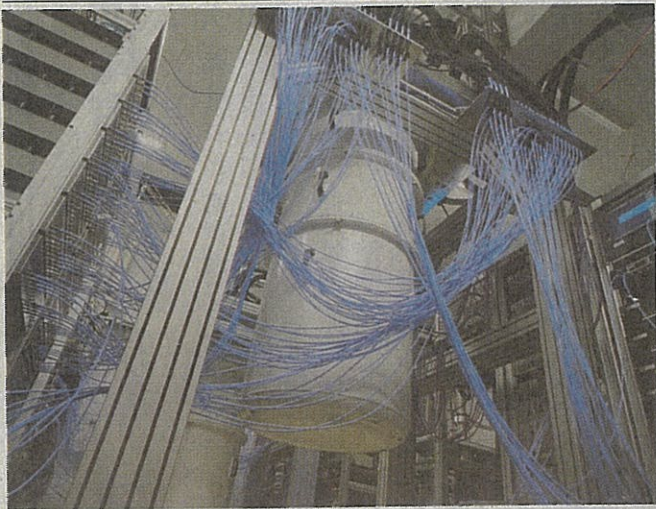


中小の価格転嫁道半ば 大手企業の大幅な賃上げ表明が相次ぐ中、中小企業の動向が注目される。中小でも賃上げ機運は高まる。一方、価格転嫁は道半ばでこの足を踏むケースも多い。デフレ脱却には供給網全体での価格転嫁が欠かせず、政府も支援を強化する。

09 生産工程DXにAI活用 トピー工業、人材育成も強化

12 「デザイン」手法を磨く 情報サービス、コンサルに商機

13 車部品の廃プラ再生 あいち産業科技センターなど



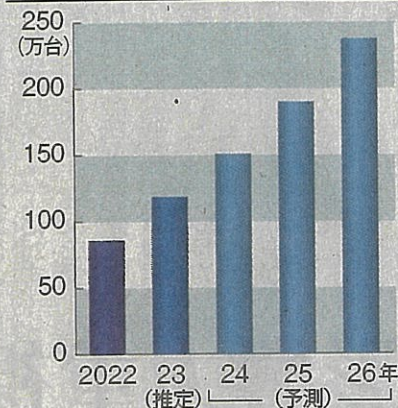
NECと内閣府は21ストベッド(試験環境)を構築する。冷凍する場とする。超電導型は10℃(約273・14度C)の極低温で量子ビットを操作して演算に使う。この回路やデバイスも極低温で駆動させ、超電導技術を利用する。テストベッド整備で極低温デバイス技術の強化につなげる。

内閣府・科学技術振興機構(JST)のムーンショット型研究開発事業としてテストベッドを構築する。25年3月に大阪大学で立ち上げ、同4月からの大阪・関西万博にクラウド提供をする計画。量子プロセッサは理化学研究所のチップを利用する。基本構成は理研の超電導型と同じだが、極低温を作る冷凍機にアルバック・クライオ(神奈川県茅ヶ崎市)の開発機を採用して国内産技術を実証する。現在は海外製の冷凍機を使っていた。ほかに国立天文台が量子ビット読み出し用のマイクロ波増幅器、NECと名古屋大が極低温分波回路などを開発している。要素技術の開発が順調に進んでいるため、内閣府がテストベッド構築の前進を決めた。

現在、超電導型は室温に設置された制御装置から極低温に配線して量子ビットを操作している。マイクロ波増幅器の発熱が冷却エネルギーの1%に相当するなど、量子ビットを増やせない制約になっていた。これらの機能を極低温に移して配線を減らすために、発熱しにくい超電導技術でデバイスを再構成している。テストベッドで開発技術を評価実証し、量子コンピュータの国内産化率と性能を向上させる。



AIサーバーの出荷台数

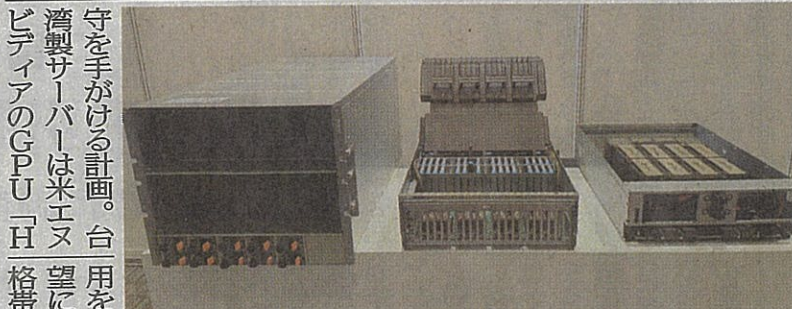


トレンドフォースの調査を基に作成

シャープと連携、提案強化

ダイナブック(東京都江東区、覚道清文社長)は、人工知能(AI)サーバー事業に参入する。今春にもデータセンター(DC)向けサーバーの受注を開始。生成AI市場が広がる中、親会社のシャープと連携しAIサーバーの需要増に応える。まずは台湾製サーバーを販売し、2024年度内にも低価格AIサーバーを開発してオンラインプレミス(自社保有)向けにも提案する方針。

AIサーバーは高性能なグラフィックス・プロセッシング・ユニット(GPU)を搭載し、膨大なデータを高速に処理できる。ダイナブックはシャープの親会社、鴻海精密工業傘下の台湾インテラシスが製造するAIサーバーを日本で販売し保



守を手がける計画。台湾製サーバーは米エヌエスが製造するGPU「H100」を搭載し、低価格帯のAIサーバーを開発する。販売面ではシャープと連携し提案力を強化する。将来はシャープと共同開発中の生成AIサーバーと組み合わせることを提案する。一方、導入費

台湾の調査会社トレンドフォースによると、26年のAIサーバーの総出荷台数は22年比2.8倍の236万台と予測する。外資系パソコンメーカーでは中国レノボ・グループや米デル・テクノロジーズなどがAIサーバー事業で先行する。

東光鉄工 館市、菅原は、洋上風力荷役に使うレーン事業

AIサーバーに参入 ダイナブック、台湾製販売

開発する。安定供給や地政学リスクを勘案し、日本で部品調達や組み立てを行うことを検討するほか、自社ブランドでの展開も視野に入れる。価格は性能次第としつつ「従来の半分以下に抑えられるのではないか」(熊谷明執行役員ソリューション事業本部長)という。

AIサーバーの提案先は自社のパソコンの顧客やDC事業者、システムインテグレーター(Sier)などを想定する。

洋上風力用クレーン拡販

東光鉄工 館市、菅原は、洋上風力荷役に使うレーン事業